



富士カントリー倶楽部 クラブハウス 「登録有形文化財(建造物)」登録

ハウス担当取締役	中田 昭吉
ハウス委員長	岩城 知宙

私たちの木造山荘風の素晴らしいクラブハウスが我が国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。現在、実際に稼働しているゴルフ場のクラブハウスとして登録されましたのは富士カントリークラブが初めてとなります。

1. 国の文化庁、登録有形文化財（建造物）の趣旨説明文

登録有形文化財（建造物）

「私たちのまわりには、残していきたい風景がたくさんあります。

身近な建造物であっても、地域に親しまれている建物や、時代の特色をよく表わしたもの、ふたたび造ることができないものはかけがえのない文化財です。この文化財建造物を守り、地域の資産として活かすための制度＜文化財登録制度＞が平成8年に誕生しました。

登録有形文化財建造物は、50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録し、届出制というゆるやかな規制を通じて保存が図られ、活用が促されています。これからもこの制度を利用して、多くの建造物が保存され、まちづくりや観光などに積極的に活用されることが期待されています。」

2. クラブハウスの登録有形文化財（建造物）申請の経緯

平成21年、理事会より「クラブハウスを登録有形文化財（建造物）に申請が出来ないものか」との提案があり、ハウス委員会を中心に申請の諸条件について調査を進めた結果、

◎建築後50年以上を経過している建造物

◎デザインが優れている場合

◎著名な設計者や施工者が関わった場合

◎後に数多く造られるものの初期の作品である

などが条件であることを確認しました。

クラブハウスは、昭和33年（1958年）に建設され建築後53年以上を経過しており、デザイン性に優れている木造山荘風の貴重な建築物で、著名な建築家アントニン・レーモンド氏の設計によるものであり、後に造られる木造クラブハウスの初期の代表作であることなどから、申請条件に適合していることが確認出来ました。その結果を踏まえ平成22年6月の理事会に於いて、登録申請を進めることが決定されました。

登録の利点は

- 1) 改修等の為の設計監理料の1/2を国が補助
- 2) 改修等の資金を日本政策投資銀行より低利で融資可能
- 3) 家屋の固定資産税を1/2に減税（地方税法）
- 4) 文化財登録を表示するプレートを交付

尚、改修・増築する場合、建物面積の1/4以上を超える場合に届け出をするのみで制約はほとんど無いため、今後の改修等について不自由さはありません。

3. 申請から文化庁によるクラブハウス立会い確認

登録申請書の作成を文化財保存計画協会へお願いし、国の文化庁、静岡県、御殿場市と打ち合わせをおこない、平成23年2月に申請書類を揃え提出しましたところ、7月25日に文化庁・静岡県教育委員会文化財保護課・御殿場市教育委員会社会教育課によるクラブハウス現地立会い確認があり、橋本社長を始めとして関係者により説明会が行われました。

4. 登録内定から登録公開説明会

平成23年11月29日、御殿場市より以下の通り登録内定の連絡が入りました。

名 称	富士カントリー倶楽部 クラブハウス
所 在 地	静岡県御殿場市深沢2472
年 代	昭和33年建設／昭和35年・昭和43年増築／平成5年改修
登録基準	造形の規範となっているもの
特徴評価	ゴルフ場の中央東寄りに建つ、建築面積1084平方メートル、鉄筋コンクリート造及び木造2階建て、切妻造鉄板葺で高さを抑えた直線的で明快な立面構成になり、内部では丸太の柱や方丈を表し、石張りの暖炉を築く。レーモンドの作風を良く表している。
備 考	設計はレーモンド設計事務所、施工は鈴木組

平成23年12月6日、14時から「登録有形文化財（建造物）」の登録公開説明会がクラブレストラン・ピクチャーウィンドウ前で行われました。出席者は次のとおりです。

- (1)クラブ側：橋本社長、光信常務、中田取締役、
細川道夫氏（文化財保存計画協会）、古庄支配人（司会）
- (2)報 道 等：読売新聞、中日新聞、静岡新聞、日刊静岡、岳麓新聞、
静岡第一テレビ（5日）、NHK静岡（9日）
- (3)機 関：御殿場市社会教育課（課長補佐）、御殿場警察署（課長）



報道解禁は平成23年12月9日、15時からテレビ・ラジオ・インターネット、新聞は12月10日朝刊より公開することに決定。

5. 今回、静岡県内で登録された登録有形文化財（建造物）

今回、静岡県内で登録有形文化財（建造物）に登録された件名は以下の3カ所、10施設でした。

浜松市－旧住吉浄水場の7施設（昭和6年建）

御殿場市－富士カントリー倶楽部 クラブハウス（昭和33年建設）

伊豆の国市－旧菅沼家住宅の2施設（文化5年頃建設）

6. アントニン・レーモンド氏設計のクラブハウス

【戦前の作品】

我孫子ゴルフ倶楽部：昭和5年に木造で建設されたが既に建て替えられている。

相模カンツリー倶楽部：昭和6年に木造で建設されたが昭和20年12月火の不始末により焼失し既に建て替えられている。

東京ゴルフ倶楽部（朝霞）：昭和7年にRC構造で建設されたが狭山へ移転。

藤沢カントリークラブ：昭和7年にRC構造で建設されたが昭和18年海軍に徴用され閉場、現在クラブハウスのみが県立体育センターの食堂（愛称「グリーンハウス」）として残っている。

【戦後の作品】

富士カントリークラブ（昭和33年）

門司ゴルフ倶楽部（昭和35年）

東京ゴルフ倶楽部（狭山・昭和38年）

7. 結び

クラブハウスは、著名な設計者アントニン・レーモンド氏の設計による貴重な木造山荘風のクラブハウスです。

この貴重なクラブハウスを現在まで大切に維持管理されて来られました諸先輩方々のご努力に対し、敬意と共に厚く御礼を申し上げます。

クラブハウスの木造丸柱や丸太の梁、ピクチャーウィンドウから眺める額縁の富士山、冬には石張りの暖炉に火が入り柔らかな暖かさに包まれて至福のひとときを過ごせる。このような素晴らしいクラブハウスは富士カントリークラブ以外にはありません。

この度の登録有形文化財（建造物）の登録に伴いまして、今後もこのクラブハウスを大切に活用し保存して行かなければなりませんので、会員皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

